

2023年3月発行

CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 78

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

困ったときはお互い さま

2023年2月20日、出入国在留管理庁がWebサイトで「現行入管法の課題」を公表しました。表紙の次のページには「共生社会の実現 適正な出入国在留管理」の横に、「日本人と外国人が安全・安心に暮らせる社会を実現するため、外国人への差別・偏見を無くし、人権を尊重することが必要。外国人にもルールを守り、許可された在留資格・在留期間の範囲内で活動してもらうことが必要。」と記載されています。

さらに読み進めると「帰国したくない」外国人を「送還忌避者」と表現したり、「送還忌避によって生じている問題について」と題して、「仮放免者の逃亡事案が多発」「送還を中止せざるを得ないほどの送還妨害行為」などといった事例が数字で説明されています。

平時の社会的弱者は有事の災害弱者

CWS Japanは、これまでの災害支援経験を通して、「平時の社会的弱者は潜在的災害弱者でもある」と仮説を立て、2020年から首都直下型地震を想定し、都内で最も多国籍化が進む新宿区を対象に滞日外国人にフォーカスした調査事業を開始しました。

時を同じくして発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は、公的支援にアクセスできない不安定な身分・立場に置かれている難民・移民の脆弱性を露呈させました。2020-2021年にかけて実施した上記の調査事業やそのほかの活動による経験から、彼／彼女らは、日

OUR BLOG IS OPEN!

ニュースレターを**NOTE**でも
配信しています。

いつも多くの方にご覧頂
いているニュースレターをも
っと手軽に、どこでも読み
やすくしていきたいと思っ
ています。



写真

2023年2月11日に開催した外国人相談会
の関係者との集合写真©CWS Japan

本語能力不足に加え、不安定な在留資格による就労制限や無保険状態、心身の健康問題、高齢化、地域社会からの孤立という問題を抱え、公的支援にアクセスできず、外からはその存在すらも見えにくいことが分かりました。

わたしたちは、コロナ禍を災害として捉え、より厳しい生活困窮と孤立状態に陥っている外国人にアウトリーチし、生活の立て直しのための支援を行うことにしました。

具体的には、新宿区において、公的支援にアクセスしにくい難民・移民に生活支援を行うことで、平時から外国人脆弱層や同国人コミュニティと信頼関係を構築することを目的としています。また、支援実施後の当事者の自助力向上のため、将来の有事の際に、当事者が生活圏内で助けを求めることができるような地域の社会資源（団体・個人・施設など）を平時から発掘し、それらの社会資源との関係性が構築できるよう両者をつなげる活動も今後実施したいと考えています。

外国人相談会

上記の事業の一環として、わたしたちは昨年からは外国人相談会を新宿区内の教会で開催してきました。そして、先月の11日にも新大久保駅から徒歩5分の距離にある教会で、外国人を対象とした相談会を開催しました。

相談会では食料品、衣料、生理用品などの物資の受け取り以外にも、生活や法律に関する相談を受けることができます。食料品は地域内の外国人店主のお店の協力を得て調達しています。当日は、アジア、中東、アフリカ圏の方々が相談会を訪れました。

このような相談会開催は、一時的な相談や物資提供の場になるだけでなく、外国人脆弱層との出会いの機会を創出する「エントリーポイント（入り口）」になります。

フォローアップ支援

なぜ外国人相談会はエントリーポイントなのかというと、相談会で受ける多くの問題は、相談会内では解決できず、その後の個別フォローアップが必要だからです。



写真
配布した食料品の一部 ©CWS Japan

フォローアップ支援は、当事者を取り巻く複雑な現状把握を言葉や精神的なバリア、健康に関わる身体的なハードルなどを緩和もしくは乗り越えながら、一から行うため、時間と労力を要します。

フォローアップ支援の内容には、医療費や住宅家賃補助などの支援も含まれています。相談に来られる外国人は、心身の健康を害し、治療が必要であっても、在留資格の問題などによって無保険者であることもあり、医療サービスを受けることが困難な状況にあります。その際、病院に同行し、医療費の支給を行うことも想定しています。また、失業や在留資格の問題によって就業制限がある外国人生活困窮者で、住居を失うリスクの高い世帯に対して家賃補助を行うこともあります。



写真
外国人相談会開催前に関係者に向けて説明をするCWS Japan職員 ©CWS Japan

これらの活動は、その場しのぎの支援をして終わりではなく、外国人医療従事者・通訳を配置する地域内の医療機関と友好なパートナーシップを築くことを念頭に入れたり、地域内で外国人に住宅を提供している地主・オーナーに在留資格・日本の制度の問題などについて理解を求めるとともに、わたしたちのような支援者とオーナーの間で顔が見える関係を築くことも視野に入れることで、社会資源の醸成を目指しています。

外国人相談会もそうですが、このフォローアップ支援も、CWS Japan単体で実施できるものではありません。そこには志を同じくする支援関係者、地域の人々・組織、外国人コミュニティなどの多くの方々の連携と助け合いが存在しています。

いつもCWS Japanに協力してくださる多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



写真

2023年2月11日の外国人相談会はCWS Japanとシャンティ国際ボランティア会(SVA)との共催(中央:CWS Japan職員、右:SVA職員) ©CWS Japan

共生社会は誰のため？

日本では、外国人人口が2015年から増加傾向にあります。その一方で日本人人口は減少傾向が続いています(総務省統計局調べ)。あなたのご近所さんが外国人ということも、珍しくなくなってきています。

少し前に名古屋入管に収容中だったスリランカ人女性ウィシュマ・サンダマリさんが死亡した問題によって廃案になった入管法改正案ですが、現在、その骨格を維持した法案を、

政府は国会での成立を目指しています。(※記事執筆時の3/3から情勢が変わり、2023年3月7日、政府は出入国管理及び難民認定法の改定案を了承する旨閣議決定しました。)

日本人と外国人が安全・安心に暮らせる社会を共生社会と定義するのであれば、「仮放免者の逃亡事案が多発」「送還を中止せざるを得ないほどの送還妨害行為」といった、外国人が危険な存在であるかのように表現された内容は、政府が外国人にとっての安全・安心を真摯に考えている姿勢を読み手がくみ取ることが難しいものになっています。

以下のリンクは、入管法改悪反対署名と今回の法案をめぐる様々な疑問をQ&A形式で、非常に分かりやすく説明されているページです。

▶ [Q&A 2023年版 #入管法改悪反対 #刑罰ではなく在留資格を](#) ◀

!

▶ [キャンペーン：難民を虐げ、在留資格のない人の命を危うくする、入管法改悪に反対します!](#) ◀

災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会

CWS JAPANは「災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会」の実現のために取り組む団体です。災害は日本人・外国人に関係なく、あくまで平等に被害をもたらします。ですが、その後の支援へのアクセスのしやすさは必ずしも平等ではないと思います。

例えば、支援へのアクセスが難しい人のなかには、足腰が弱く、自ら避難することができない高齢者がいます。避難場所で身の危険やリスクを感じやすい女性や性的マイノリティがいます。正しく情報を処理できずパニックに陥りやすかったり、自らを守る行動をとれない身体的・精神的障がいを抱える人がいます。妊産婦・乳幼児のいる家庭がいます。アレルギーのある人や宗教上の慣習から特別な配慮が必要な人がいます。引っ越してきたばかりで、周囲の土地も人も何も知らない人がいます。

これらは、ほんの一例ですが、日本人・外国人に関係なく当てはまる可能性がある特徴だ

と思います。みなさんの周囲に当てはまる人がいらっしゃるでしょうか。もしくは、自分が該当するという人がいらっしゃるのではないのでしょうか。

相手や自分が外国人であるか否かに関わらず、、、災害があった時に、誰かに手を差し伸べ、自分も手を差し伸べられる。そうやって「困ったときはお互いさま」と助け合う。そのようなコミュニティの文化が日本で醸成される。CWS Japanの取り組んでいることがそうした文化醸成の一助になればと思います。

(文：プログラム・マネージャー 西澤紫乃)

※この活動の一部は、赤い羽根ポスト・コロナ(新型コロナウイルス)社会に向けた福祉活動応援キャンペーン 外国にルーツがある人々への支援助成案件として採択され、実施しています。

アフガニスタンの落石リスクの現場から

アフガニスタンでは、2022年6月に同国のホースト県とパクティカ県で地震が発生し、同地域および周辺地域の人たちに大きな被害をおよぼしました。地震が発生したのは山岳地帯で、たくさんの地域が孤立し、支援へのアクセスを難しくしました。

ナンガルハル県ダラエノール郡の辺境にあるスータン村は、今回の地震で大きな被害を受けた村の一つです。この山間の村には600戸以上の家屋があり、農業や家畜の生産を主な生業としています。この村の住民は、地震によって家を失っただけでなく、生計の手段も失ってしまいました。

地震後のリスク

この地震によって、もう一つ大きなリスクが生まれました。上の写真にあるような巨礫にヒビが入り、位置がずれたことによって、滑落の危険性が増したのです。上の写真でご覧頂けるかと思いますが、ふもとは住民の居住区となっており、落石が起きた場合、犠牲者が発生し、村の建物・水道・農地などが被害を受けることとなります。

「地震発生直後の早朝、余震が続く中、わたしたちは大急ぎで自宅から避難しました。

そのため、わたしたちは最も基本的な必需品しか持っていくことができませんでした。しかし、冬を目前にして、わたしたちは避難生活が長く続かないことを祈り、家族や子どもたちが暖かく過ごせるように、家に戻ろうと思いました」と、スータン村に住むアミールさんは話してくれました。アミールさんと家族7人は、スータン村から6キロメートル離れた



写真

スータン村で不安定化した丘の上の巨礫

©CWSA

マジュグンデル村の親戚の家に1カ月間移り住みました。しかし、戻ってきた時には巨礫の落石リスクが待っていたのです。

現地コミュニティの力

この状況をワヒドゥラさんという若者が見ていました。ワヒドゥラさんは、CWS Japanが2017年から続けている防災力向上支援事業（外務省NGO連携無償協力資金助成）で防災研修を受けた一人で、災害リスクの精査やGISを活用したハザードマップ作りなどの技術を学んだ技術者です。潜在的なリスクを評価し、スータン村の地形をよりよく理解するために、ワヒドゥラさんは有志を集め、村のハザードマップを作成しました。ハザードマップを通じて得られた新しい情報をもとに、スータン村で意識向上セッションを開始し、丘陵地帯での生活に伴う危険とそのリスクを最小限に抑える方法について地元の人々に伝えました。

その後、ワヒドゥラさんはCWS Japanおよび現地パートナー団体のCommunity World Service Asia (CWSA) に連絡を取ってくれ、そこから国を超えて、スータン村の落石リス



写真

分解作業案作成に向け巨礫の大きさや体積を測る防災チームメンバー©CWSA

クの軽減方法を議論しました。上記事業で技術的なサポートを頂いている国土防災株式会社の皆さまにも専門的なお知恵を頂きました。CWSAの防災事業チームも現場でリスク評価を行い、巨礫がいつ滑落してもおかしくないので、まずは巨礫の落石想定エリアから離れた場所に住むよう地元の人々にアドバイスしました。また、防災事業チームはリスクそのものを取り除くための案をいくつか作り、最終的に、少しずつ細かく巨礫を崩していく案を採用しました。

防災事業チームと地元コミュニティのボランティアグループが協力し、地域住民と作業者の安全を最優先に考えながら巨礫は少しずつ分解されていきました。作業が完了し、安全が確認されると、スータン村から避難していた200世帯はすべて自宅に戻り、学校も再開されました。生徒たちは喜んで学校に戻ったそうです。



写真

分解前と分解後の巨礫の写真©CWSA

"地域の復興に自分の人生を捧げるローカルリーダーの存在・・・その方々がいるからこそ、復興がある。"

「わたしたちは1カ月間、テントの中で過ごした後、家に戻ってきました。友人は5人家族のわたしたちを手厚くサポートしてくれました。岩が取り除かれた後、わたしたちは安心して家に戻り、子どもたちも学校に戻りました」とスータンの住民、グル・ザマンさんは話してくれました。

地域の復興とリーダーの存在

わたしはかれこれ20年近くアフガニスタンの仲間たちと関わっていますが、このように率先して自分たちでリスクを把握し、その軽減案を模索し、実行していく彼らが非常に頼もしく思えました。そして、そういったマインドや人材と一緒に育ててくれた仲間たち、国土防災技術株式会社の皆さま、事業の資金的な支援をして下さった外務省など、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。これこそCWS Japanが目指すローカライゼーションです。現地のリーダーシップによって、より安全で平和な社会になること。その促進のために日々邁進して参ります。

2011年に発生した東日本大震災から12年が経ちました。CWS Japanも東日本大震災、そしてそのリスク・脅威に晒された地域の人々と活動をともしてきました。そのプロセスでやはり感銘を受けたのは、地域の復興に自分の人生を捧げるローカルリーダーの存在です。その方々がいるからこそ、復興がある。それは日本もアフガニスタンも同じなのだなと感じます。

ちなみに、こういった落石リスクはアフガニスタンの至る所であるので、落石リスク軽減のためのガイドライン作りなども今後広めていきたいと思っています。

(文：事務局長 小美野 剛)

外国人はお荷物か、人財か？

本日（3/17当時）、わたしは東京入管（正式名称：東京出入国在留管理局）に来ており、仕事の合間にこの記事を書いています。外国人相談会に来場した相談者の一人が難民申請者であり、本日、入管でインタビューを受けるにあたり、彼の支援者として同行しました。

遠い思い出の国からやってきた彼との出会い

実は彼の出身国は、私が以前仕事で駐在していた国です。その当時は、部族間の対立により多くの人々が虐殺された国でしたが、政権交代後はめざましい発展を遂げ、他国からは賞賛を受けているほどです。私は任期を終え、帰国後、部族間の様子が気にはなっていたものの、残酷で悲しい戦争から立ち直った優秀な国のサクセスストーリーを遠くから耳にするだけで安心していましたし、再び訪問することはありませんでした。それが数十年の時を経て、内戦直後に生まれた彼がわたしたちの相談会に現れ、難民申請中であることを知って大変驚くと同時に、なぜ縁もゆかりもない日本にやってきたのか、大変興味を持ちました。

彼の身の安全を考えると、詳しいことはここで説明することができませんが、彼によれば、外部者の目には歴史的な虐殺という事件を乗り越えたように見えても、実際は、部族間のわだかまりは続いており、婚姻などは未



写真

2022年開催外国人相談会受付の様子

©CWS Japan

だに困難な状況もあることを聞かされました。また、短期間の国家再建や発展の裏には多くの犠牲が伴ったこともほのめかしていました。そのような彼のストーリーをヒアリングし、これまでの不勉強さや、その後のフォローを怠っていた自分を恥じました。また知らず知らずしなかったことを反省し、彼に謝りました。彼が出身国で暮らし続けることが危険になってしまったのは、もしかしたら、そのような短期間の国家のめざましい発展の陰で様々な無理と対立があり、ある意味、そのしわ寄せが彼にも来たのではないかと想像しました。

今、目の前にいる人との伴走

わたしが入管同行支援を行った相談者は彼が2人目です。現在、日本政府は現行の入管法を改定し、彼のような帰国することが命にかかわるような外国人も早く国外退去処分ができるようにしようとしています。難民申請者のなかには難民ではない外国人が含まれているのではないかという否定的な意見を耳にします。それを聞くと、かつて私が勤務していた難民キャンプに虐殺の加害者が難民として紛れているという事実が知らされ、支援中止を決めた支援団体が撤収したことが思い出されました。誰が真実を語っているのかを判断するにはそれを裏付ける膨大な情報収集が必要ですし、全ての証拠を提示できる訳でもありません。そういうことから、当時は、加害者が紛れていた可能性はあっても、目の前にいる難民と協力しながら、支援活動を続けることしかできませんでした。

"善意とか正義感よりもある種の「仲間意識」であるかもしれません。わたしたち日本人も一歩日本を出れば外国人です。・・・外国人は日本社会にとって、お荷物なんではしょうか？"

それは、今も同じことです。彼らのストーリーに耳を傾け、何度も面会し、コミュニケーションをとることで、お互いに信頼関係を作っていくようにしています。その時間と経験を共有するなかで分かってくることを信じて、伴走支援を続けています。



写真

東京出入国在留管理局 ©CWS Japan

信頼に値する人に国籍は関係なし

わたしはこれまでの経験から、信頼に値する人間に国籍も宗教も関係ないと思っています。とは言え、このような支援は大変時間と労力が必要であり、いわゆるタイパ（タイムパフォーマンスの略）的には最悪であり、支援団体の資金がいつまで続くのかは常に課題となっています。最近では、外国ルーツの人々を支援対象とした助成金も増えてきたものの、在留資格がないため就労できず、無保険者で生活困窮する外国人を支援するための医療費・家賃補助・給付金を提供できる助成金は非常に限られているのが現実です。

なぜ、これをするのか？

先日、ある外国人から「なぜこんな支援を行うのか？彼らからお金をもらっているのか？」と問われました。その時は「これがわたしの仕事だから」と適当に受け答えしてしまいましたが、あとから考えると、それは、善意とか正義感よりもある種の「仲間意識」であるかもしれません。わたしたち日本人も一歩日本を出れば外国人です。これまで外国人という立場で他国に勤務し、暮らし、現地で仲間を得てきた自身の経験が現在の活動に大きく影響しているかと思います。

オモテナシの国日本

最後に、外国人は日本社会にとって、お荷物なんでしょうか？

最近では、「高度外国人材」という言葉をよく耳にするようになりました。高度な専門性を持つと日本政府に認められた、つまり、オモテナシするに値する外国人には様々な優遇措置があります。その一方で、難民申請し、非正規滞在者として扱われ、就労が許されず、あらゆるセーフティネットを失う立場に置かれた多くの外国人がこの日本で暮らしています。それでは、彼らも人財としてカウントしてはどうでしょうか？少子高齢化が進み、人財不足に悩む日本社会で彼らが活用されないのはもったいないことだと考えています。

そんな隅っこに追いやられ、見えない存在とされている彼らのスキルや能力を見出し、それを証明できる場や機会を提供できることを目指しています。

(文：ディレクター 牧 由希子)

▼みなさまの温かいご支援とご協力をお願いいたします▼

- 銀行名：三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）
- 支店名：神田支店（331）
- 口座種類・口座番号：普通 0360959
- 口座名義：特定非営利活動法人 CWS Japan 理事 ショウ ラジブ
- カナ： トクヒ) シーダブリユエスジャパン リジ ショウ ラジブ

パキスタン洪水被災者の生命をつなぐために VOL.2

事業概要

昨年6月中旬以降にパキスタンで厳しいモンスーンによる豪雨が発生しました。本事業は、大洪水やそれによって起こった地滑りにより甚大な被害を受けた被災者への支援を目的に、ジャパン・プラットフォームによる助成を受けて、

パキスタンのパートナー団体である Community World Service Asia (CWSA)と提携して実施しています。

具体的には、洪水被害によって深刻な食料不足に直面している、パキスタン南部シンド州のミルプール・ハース地区の1,100世帯の人々に、食料が入手できるようキャッシュ（現金）を配布しています。活動は2022年11月15日から開始し、今月末に活動を終える予定です。

支援の現況

事業を開始してから4カ月が経過した現時点では、キャッシュ配布対象の1,100被災世帯を選定し、合計3回配布する計画のうち、2回までのキャッシュ配布が終了しています。

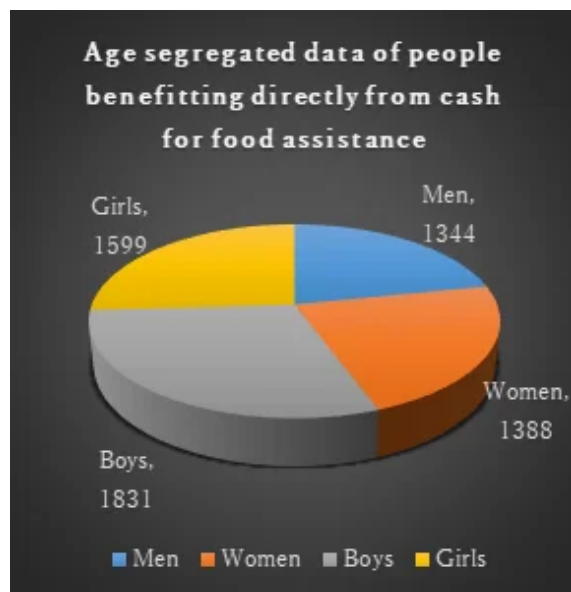


写真

被災世帯への事業オリエンテーションを行う様子 ©CWSA

今回のキャッシュ配布は携帯通信サービスを利用し、被災世帯が各自の携帯電話を通して口座を開くことで、通信業者の各地にある支店からいつでもキャッシュを引き出すことができるようにしています。携帯電話や通信に伴う不具合も一部にあったものの、この不具合にも対応し、選定した1,100全世帯が、問題なくキャッシュを受け取ることができています。被災世帯が受け取ったキャッシュで食料や必需品を入手しているかどうかなど、キャッシュが必要な人に、必要なものが入手できるように行き届いているのか確認しながら進めています。

開始から事業期間にわたって事業が円滑に進められるよう、CWSAは地域の関連省庁や地元の関係者との情報共有を継続してきました。また、被災世帯の選定やキャッシュ配布にあ



キャッシュ配布世帯(1,100世帯)内訳

男性 (1,344人)、女性 (1,388人)、
男子 (1,831人)、女子 (1,599人)

たって、地元のキーパーソンをうまく巻き込むようにしました。こうして、被災世帯だけでなく、周囲の関係者との協働と協力を得るようにしたことで、地域に寄り添ったかたちで事業を滞りなく実施することができました。



写真

受け取ったキャッシュで食料を購入する被災者 ©CWSA



写真

政府関係者やステークホルダーとの打ち合わせ ©CWSA

過去のニュースレターやインタビュー記事は下記よりアクセス頂けます。

過去のニュースレターは [こちら](#)



最後に

最後の3回目のキャッシュ配布は今月に実施しており、予定通りの今月末に事業を終了することになっています。事業の終了まで残り少なくなってきましたが、最後まで現地の提携団体と進捗を確認し、最も支援を必要としている人たちに支援を届けてまいります。

無事に終了しましたら、最終のご報告をまた別の機会でしたいと思います。

(文：プロジェクト・オフィサー
ライン 静香)

インタビュー記事は [こちら](#)



上島 安裕 様 | 一般社団法人ピースポート...
© 7月 07, 2021 ■ パートナーの声



堀内 英様 | 特定非営利活動法人 国際協力...
© 7月 07, 2021 ■ パートナーの声



眞弓 孝之 様 | 国土防災技術株式会社事業...
© 6月 06, 2021 ■ パートナーの声



中村 清美 様 | 国土防災技術株式会社国際...
© 6月 06, 2021 ■ パートナーの声

ご高覧頂き有難うございます。次回のニュースレターは4月末の発行を予定しています。

特定非営利活動法人CWSJapan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)

